作物名

（ 2020 ）年 度 委 託　　　　　　　　　（ はくさい ）

対象病害虫名　ハスモンヨトウ

試験場名　一般社団法人日本植物防疫協会　茨城研究所

担当者氏名　日植防　太郎

1. 試 験 目 的　防除効果及び薬害の検討

2. 試 験 方 法　試験地場所　茨城県牛久市結束町 535　一般社団法人日本植物防疫協会　茨城研究所

対 象 病 害 虫 発 生 状 況　多→中発生（放虫）

耕種概要（品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培（ビニルハウス・雨除け・トンネルなど）の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載）

品種：勝春　播種：2020 年 6 月 20 日　定植：7 月 11 日　栽植距離：畝幅 150cm×株間 40cm　2 条植え（播き）

土性：壌土　露地栽培　施肥その他一般管理は慣行に準じた。

試験期間中の防除薬剤：8 月 8 日　C 乳剤

区制・面積・試験区の構成　1区　5.4 ㎡（1.5m×3.6m）18 株　3 連制

1-Ⅰ	2-Ⅰ		3-Ⅱ	
	3-Ⅰ		1-Ⅲ	2-Ⅲ
	1-Ⅱ	2-Ⅱ		3-Ⅲ

1:A フロアブル　2:B 顆粒水和剤　3:無処理区　Ⅰ Ⅱ Ⅲは連制を示す。

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

（処理年月日）　2019 年 8 月 15 日

（処理時の作物のステージ）展葉期(本葉 10～12 枚)

（処理方法）供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、229L/10aの割合で葉の表裏が十分濡れるように背負式バッテリー動力噴霧機を用いて散布した。

（処理前後の降雨影響）処理前後に降雨はなかったため影響はなかった。

試験期間中の気象条件

月日	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22
平均気温(℃)	28.3	28.5	28.7	28.1	29.4	27.7	26.1	25.4	25.4	25.4
降水量(mm)	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.0	2.5	11.0

観測地点：茨城研究所

調査月日・方法（月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載）

（調査月日）散布前（8 月 15 日）、同 1 日後（8 月 16 日）、同 4 日後（8 月 19 日）、同 7 日後（8 月 22 日）

（調査方法）薬効は、各区中央付近 10 株についての生息虫数を発育ステージ別に調査した。

薬害は、薬効調査時に茎葉の薬害症状を以下の基準により肉眼で観察した。

－：薬害を認めない。＋：軽微な薬害症状を認める。＋＋：中程度の薬害症状を認める。

＋＋＋：重度の薬害症状を認める。

その他（特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載）

8 月 13 日に、区あたり 3 卵塊（日植防茨城飼育個体群、2005 年より累代飼育、2018 年夏、野外虫と交配）を接種した。

コメントの追加 [Wユ1]: 学名の表記方法について(例)

2021 年度より学名の記載は省略可能です。

・通常

ミナミキイロアザミウマ

・～類での依頼

アザミウマ類　（ミナミキイロアザミウマ）

・複数種を調査した場合

アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ、ネギアザミウマ）

・複数種が混発し、種別の数は分からないものの主たる種が明らかな場合

アザミウマ類　（ミナミキイロアザミウマ主体）

・タバココナジラミはバイオタイプも記入

コナジラミ類（タバココナジラミバイオタイプ Q）

・属名のみ判明している場合

ネコブセンチュウ属

・アオムシ

アオムシ（モンシロチョウ）

...

コメントの追加 [J2]: 土性の表記について

壌土、砂壌土、砂土など。分からない場合は不明と記述。

ポット試験の場合は使用した培土名を記述。

コメントの追加 [J3]: 試験期間中の防除薬剤（殺菌又は殺虫剤）について

使用月日、薬剤名を記載。試験開始前であっても試験に影響があると考えられるものは記述する。使用していない場合は「なし」と記載する。

コメントの追加 [J4]: 試験区の構成

各区の位置関係がわかるように配置図を記載する。

コメントの追加 [J5]: 気象条件について

・試験開始から最終調査日までの平均気温、降水量を表またはグラフで示す。（施設栽培は降水量不要）

・データの引用元を付記する。

コメントの追加 [J6]: 調査月日・調査方法について

薬効と薬害の調査日が異なる場合はそれぞれ記載。

複数処理の場合は最新処理からの日数を記載。

例：第 2 回処理 3 日後、最終処理 7 日後等

調査月日と方法の項目を分けずにまとめても可。

薬害は、いつ、どの部位について観察したかわかるように記

コメントの追加 [J7]: 特記事項、放虫、生物農薬の品質チェック等

放虫した場合はここに記載。虫の由来（採集時期、場所）や放虫方法（放虫量や場所、薬剤処理との時間的関係）を記載

天敵農薬を使用した場合は使用前の品質についても記入

(2020)年 度 委 託　　　　　　　　　作物名
(はくさい)

対象病害虫名 ハスモンヨトウ

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会 茨城研究所

3. 試 験 成 績

供試薬剤	処理方法	連制	10株あたりの生息虫数 散布前 8/15				1日後 8/16				4日後 8/19				7日後 8/22				薬害 8/16,8/19 8/22
			若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計	
22) Aフロアブル	2500倍	Ⅰ	0	614	0	614	0	17	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	―
新規化合物 10%	散布	Ⅱ	0	406	0	406	0	29	0	29	0	0	0	0	0	2	0	2	―
Lot. No. ABC-1234		Ⅲ	0	503	0	503	0	20	0	20	0	2	0	2	0	0	0	0	―
		計	**0**	**1523**	**0**	**1523**	**0**	**66**	**0**	**66**	**0**	**2**	**0**	**2**	**0**	**2**	**0**	**2**	
	(補正密度指数)									**(7.8)**				**(0.9)**				**(2.0)**	
対照 B顆粒水和剤	2000倍	Ⅰ	0	339	0	339	0	45	0	45	0	5	0	5	0	4	0	4	―
既知化合物 20%	散布	Ⅱ	0	561	0	561	0	40	0	40	0	14	0	14	0	6	0	6	―
		Ⅲ	0	1054	0	1054	0	33	0	33	0	5	0	5	0	0	0	0	―
		計	**0**	**1954**	**0**	**1954**	**0**	**118**	**0**	**118**	**0**	**24**	**0**	**24**	**0**	**10**	**0**	**10**	
	(補正密度指数)									**(10.9)**				**(8.0)**				**(7.7)**	
無 処 理	―	Ⅰ	0	435	0	435	0	244	0	244	0	57	0	57	0	25	0	25	
		Ⅱ	0	400	0	400	0	161	0	161	0	64	0	64	0	28	0	28	
		Ⅲ	0	375	0	375	0	267	0	267	0	65	0	65	0	27	0	27	
		計	**0**	**1210**	**0**	**1210**	**0**	**672**	**0**	**672**	**0**	**186**	**0**	**186**	**0**	**80**	**0**	**80**	
	(補正密度指数)									**(100)**				**(100)**				**(100)**	

コメントの追加 [J8]: 試験成績について
・結果を表形式で記載。
・連制ごとまたは調査地点ごとに結果を表示し、合計値(または平均値。虫数は原則として合計値とする)も表示する。
・評価するための指数(密度指数、補正密度指数、対無処理比、防除価等)も記載する。
・薬害は調査時期がわかるように表記。
・2021 年度より表中の無処理区の薬害記号は記載不要となりました。

紙面のスペースによっては“後述”と記載し、表を末尾に記載しても可。

4. 考察

実用性の判定は、散布 4、7 日後の補正密度指数より行った。

22) A フロアブル　　2500 倍散布　　AAA−

本処理は対照処理と比較してまさる効果を示し、無処理と比較して効果は高かった。実用性は高いと考えられる。
薬害は認められなかった。

コメントの追加 [J9]: 考察について
・実用性の判定は基本的に対無処理判定を重視する。対無処理判定と異なる判定とする際は、その理由を明記する。